

## 課題発見ゼミナール 塚本クラス希望者：32名

担当教員よりの応答

希望する人は、以下の点について、確認をお願いいたします。

- 1) 自分のデバイスでアプリが挙動するかの確認を兼ねて、アプリをダウンロードして、使ってみてください。ダウンロードの際には、WiFi 環境でのダウンロードを推奨します。
- 2) アプリを手に、少し歩き回ってみてください。  
(利用の際には、周囲の人や交通などに十分ご注意ください。公共の場では、歩きスマホにならないように注意)  
ご自分がこのゼミに期待するものと合致しているかを確認する手掛かりにはなると思っています。
- 3) このアプリの根幹にある技術は、「GIS」です。  
GIS についての知識を持っておくことで、深い議論ができるようになりますので、後期の教養科目にある「空間情報論入門」(月曜3・4)を受講されることをお勧めします。
- 4) 確認  
土日に授業が行われることがありますので、ご注意ください。

私はオープンキャンパスで塚本先生の講義を聴いて、GIS はアートと組み合わせることで津波の高さを実感するものとして防災意識を高められることを知り、関心を持ちました。徳島大学に入ろうと思ったきっかけの1つがその講義でした。私は以前から地域の歴史にも関心があったので、塚本先生のゼミは私の興味に合っていると感じました。私は将来、徳島の、特に自分の住む地域をさらに良くする仕事をしたいと考えており、GIS 学術士の資格も取るつもりです。自分の興味がある分野からアプローチしていけばより良い仕事ができると思います。塚本先生のゼミで地域について考え、学び、来年度からの学修、ひいては就職にも繋げたいです。

このクラスを希望したいと思った理由は、自分たちが普段歩いたところなどが過去にどんな状況であってどのようなひとがすんでいたのかなどについてあまりかんがえたことが

なかったからである。また、現代では昔と比べて、地域の活性化や人々のつながりなどがうすれていっているため、それをとりもどすためにはとりあえずまずは地域のことについて深く知ることが大事である。地域を活性化させることができれば、その地域独特のことを他の県などの人にも知ってもらうことができ、多くの人がかかることにより、もっと地域を活性化させることができ、また経済的効果も見込まれるであろう。地域の昔の状況ことを知るのにふつうに地図をみただけでは自分がどの場所にいるのかどうかを知るにはわかりにくいいため、アプリを使って自分の現在地を知ることができる最新技術を使って町歩きをすることは非常に昔の状況と現在の状況を比べるのに役に立つし、その変化を知ることにより、地域の変遷をすることになり、地域をこれから廃れさせないようにするために自分たちにはなにができるかということを考える上で活躍するようなものだった。また、自分たちが知るだけではなく、地域に住んでいてもその地域のことについて詳しく知らない人たちにとって地域のことについて知ってもらえるようにすることにもつながるのではないかと思われる。

私は、塚本先生クラスの課題発見ゼミを受講したいと考えている。

理由はまず、「まちあるきアプリ」を使って徳島のまちについて考え、その上、昔と現在の徳島のまちの違いを知ることによって昔と現在と変化したのはまちの風景だけであるのかというような疑問についてもっと知ってみたいと思ったからだ。私はフィールドワークをして地域の人々と関わりたいと考えていたのでこの授業では外に出て実際に歩き回ってまちの見どころを発見し、徳島の魅力について考える機会があるということにとっても魅力を感じている。このフィールドワークを通して、自分自身のコミュニケーション能力の向上も期待したい。

また、この授業では地域を研究するための基礎的な知識を身に着けるとともに文献や資料の収集方法、調査結果の分析まとめ方を学び、グループワークやプレゼンテーションも行う。だから、人前に出て意見をはっきり主張することが苦手な自分のスキルアップにもつながると考えたので私は塚本先生クラスの受講を希望する。

私は、徳島市出身なので、ほぼ徳島市のことは知っていると思っていた。しかし、大学に入ってから大学の周りを歩いていると、知らない飲食店や建物が多くあった。自転車や車で何気に通っていたところも、歩くと景色が全く違う風に見えて面白いと感じた。

まちあるきをアプリを使うことで、今の場所に昔何があったのかを知ることができる。昔の徳島の街がどのようなところをフィールドワークを通して学びたい。

私は将来、地方公務員を希望しているため、「まちあるきアプリ」を使うことによって地域の魅力を考え、伝えることができるこの塚本先生のクラスを受けたい。葭森先生も似たような授業内容であるが、塚本先生のクラスでは携帯を使っていることに魅力を感じた。理由として、これからの時代はデジタルが主流になり、地方公務員の仕事でも必ず使われるようになるだろう。GISを通じたデジタル資料の新しい活用は将来必ず役に立つだろう。また、フィールドワークを通して地域の人々との交流ができることに関しても、コミュニケーション能力の向上につながるだろう。

私は塚本先生の「まちあるきアプリ」から地域の魅力を考えるという授業を受けたい。理由は、高校の地理だけでは、地理を学ぶのに物足りなさがあり、この授業を受けることにより一歩踏み込んで地理を学べると考えたからである。高校で地理選択をしてから、景色を見るときに「きれい」「落ち着く」などの感情だけで終わらせずに、地形のしくみについても考えるようになった。また高校の地理の授業で、高校の周りを実際に歩いてフィールドワークをしてみるとというのが1回あったが、自ら疑問を発見して、先生や仲間と疑問を解決することに魅力があった。塚本先生の授業では、この魅力を感じられるだけではなく、資料を読み解き地域を分析することによって、大学生がどのように地域に貢献できるかまで考え、ワークショップなど地域に関わる点において社会的・公共的機能があると考える。この授業に期待することはまちあるきアプリを使って、自分自身が昔と現在とこれからの徳島をつなぐ役割を担ったという実感を、授業が終わったときにもつことである。

私は、将来地方公務員になりたいと考えている。地域に貢献することができる能力をもった人材になるために、ゼミを通じて地域の魅力を見つける力を身に着けたい。どこのゼミでも行われているが、自分がいいなと感じたことをグループワークで伝えることは、いい加減にしていたらできない。今まで、自分の意見を伝えることを避けてきた部分があった。それでも高校までは先生が何とかしてくれた。しかし、大学では違う。自分の意見は正確でわかりやすく伝えなければならない。自信をもって、自分の意見をつたえられるように取り組んでいきたい。このゼミで、少しでも地域に貢献することを~~▼~~目標にしていきたい。

私は塚本クラスの課題発見ゼミを希望する。志望する理由は二つある。

一つ目は、私は観光名所を巡ることが好きだからである。散歩することも好きな私にとっては、歩きながら歴史的に徳島の有名場所をめぐることができるのは私にとって一石二鳥である。

そして二つ目の理由は、このゼミでの学びを将来生かすことができそうだからである。私は大学卒業後地元に戻り、町の職員として働きたいと考えている。小さいころからずっと公務員になりたいと考えていたわけではなく、むしろ県外へ出て働くつもりだった。しかし、高校三年生の時あと少しで故郷から離れなければならないのか、と思い、それ以来町のことを見つめるようになった。意識して見てみれば、いかに自然が豊富なのか、いかに人があたたかく過ごしやすい街であったかに気づくことができた。この発見をして、私は将来町に戻って何かしらの職に就き働こうと思うようになった。私のように、町の魅力に気づくことなく都会に憧れ進学や就職をし、それ以来この町には帰省という形でしか訪れない若い人が私の周りにはたくさんいた。だから私は、公務員として働くことで、小さいうちから町の魅力に気づけるような取り組みを行い、この町が抱える少子高齢化という問題を改善したいと考えている。

このゼミでは「まちあるき」を通して地域の魅力を再発見しよう、というものであり、このゼミで得た学びは私が職員として働く中で大きなヒントとなるはずである。このヒントを元に私が望むまちにするための施策を作り、そしてそれが成功すれば、進学や就職で県外へ出たとしても将来地元帰ってくる人が増え、私の町が苦しむ少子高齢化という問題が改善できる能性がある。また、この問題は私の町だけではなく、日本中の多くの町が抱えており、施策が成功することで多くの町に恩恵を施すことができるはずである。魅力の発見の仕方を学び、将来働く中で役立てることを願い、このゼミを志望する。

私たちが知らないだけで、地方ごとに歩んできた歴史は様々である。塚本先生のゼミでは、普段の生活をしていては絶対知ることがない私たちの住む地域の歴史を知ることが出来る。さらに、携帯のアプリで普段は目にする事が出来ない古地図を簡単に見ることが出来るのも貴重な経験であるし、自分ひとりでそのアプリをダウンロードして調べるよりも、グループのみんなや先生に教えてもらいながら調べる方が地域の歴史に関する理解が深まるので魅力的だ。自分が今住んでいる徳島県を深く知ることによって徳島愛が増すであろうし、徳島をあまりよく分かっていない人たちに教えてあげることが出来る。また、徳島県のことを歴史から知ることによって、一学生として、地域の人たちの力になれるし、地域の人、特に高齢者の方々との話の話題に出来る。

大学進学を機に徳島県にやってきた私ですが、今までは縁もゆかりもなかったので、徳島の土地柄や歴史についてまったく学ぶ機会はありませんでした。実際徳島に越してから、特に目立った事柄もない平凡な県だとの認識しか生まれませんでした。今回、課題発見ゼミナールという様々な専門領域の講義についてのご紹介を受けて、徳島について深く学べる絶好の機会と捉えました。様々な先生の話がありましたが、私は特に塚本先生の領域が私の関心と合致していたので、先生のゼミを選ぼうと考えました。また、徳島城博物館さんと共同でアプリの活用の仕方について考えるとのことで、地域の方と共同で何かを成し遂げるといふ点にも魅力を感じました。

これからの時代、地方に位置する大学の使命として、地域についての理解を深めるといふことがあげられると確信しています。徳島県には 3 大学しかありませんが、それぞれの大学が個別に動くのではなく、共に協力し合って地域のために何かアクションを起こすといふことも、地域理解の一環として存在してもいいのではないかと思います。現在、四国大学の学生さんが商店街の店舗を夜だけ貸し切って店舗を開いているようですが、単独で動くのではなく、徳島文理大学の学生さんや徳島大学の学生とも、計画を練りあって建設的な提案ができれば、また一風変わったものに仕上がったはずだと思います。

徳島に来たのも何かの縁、せっかくなので未知の県、徳島について古地図や多様な人々を通じて知見を深めることができれば、少しは有意義に徳島で学生生活を送ることができると思います。また、今後の自分の進路を考える上でも貴重な参考資料になると思います。

私は、将来徳島市役所や県庁などで働きたいと考えている。そのためにも徳島の魅力を知っておかないといけないと考えている。また、徳島の活性化にも貢献していきたい。徳島を地域の人々が安心して暮らせるような住みやすい街にしていきたい。地域の人々が快適に過ごせるようなまちづくりを考えていながら地域のことについて実際にフィールドワークして自分もまだ知らない地域の魅力を見つけられたらいいと考えている。

また、私は将来徳島の魅力を発信していきたい。そのためにも情報科学の立場から地域を分析していくのは今後必要になると考え、このクラスを希望した。

地域の新しい魅力を発見できることを期待する。

私が選択したいゼミは、塚本先生のゼミである。今回の授業の後に、ゼミで使用すると

おっしゃられていたアプリをダウンロードしてみた。使ってみると、今の徳島と昔の徳島を比べることができたり、今までは何も気にせずに通っていた場所の歴史を知れたりして、非常に面白かった。そして、このアプリを使ってのフィールドワークなどで、徳島の新しい魅力を自分でも発見してみたくなった。上記の理由から、私は塚本先生のゼミを選択したいと思った。このゼミに入ることができたならば、多くのフィールドワークに行ってみたいと思っているが、論文の調べ方など基礎的な知識も学びたい

私は、塚本先生のクラスを希望します。

主な理由として、私は、「地域」の活性化について考えることに興味があり、二年生からのコース選択も「地域創生コース」に進みたいと思っているからです。「地域」を活性化させるためには、まずは、その「地域」のことを知る必要があります。塚本先生の授業では、空間情報科学の立場から「地域」を分析し、研究するための初歩的なスキルと知識を学ぶことができます。文献や史料を集め、それらを読み解くことはもちろん、それ以外にも「城下町とくしま歴史さんぽ」というまちあるきアプリを用いて、実際に徳島のまちを歩くというフィールドワークができるのは、塚本先生のクラスならではのものと考えています。

前回の第八回総合科学入門講座では、「現場に出る」ということが、これまでの常識が通用しない今の時代で、重要になると学びました。実際にフィールドワークを行って、現場に出て、自分の目で確かめ、知らなかったことを知り、次に繋げていきたいと思っています。

また、塚本先生のクラスでは、グループワークやプレゼンテーションなどがあるので、自分とは違った意見や考えを持つ人たちと意見交換できるということにも、期待しています。他人の考えを知ること、こういった考えもあるのだと気づき、広い視野で物事を見る練習を積んでいきたいと思っています。

私は、高校生の時に日本史の授業をとっていた。授業では、徳島県のことについてあまり触れられませんでした。話に出てきたとしても、長宗我部氏のことだけで、徳島という大きなまとまりでしか勉強しなかった。しかし、大学生になり、徳島の現在の姿だけでなく、過去の地図を使い昔の徳島についても知ることができるこの機会に徳島について知りたいと思う。また、私は、生まれも育ちも徳島だが、ずっと藍住町に住み、高校も家から自転車で20分ほどの距離にある学校だったため、徳島全体はおろか徳島市の大学周辺に何があるのかさえあまり知らない。それにもかかわらず、私は、現在の将来の夢が徳島の役場で働く地方公務員である。徳島市でさえ知らないようでは勤まらないので、より一層徳

島について知りたい。また、塚本章宏准教授は、地域創生コースの先生でフィールドワークのやり方や活用方法を先生が実際にしてこられた事例や周りの方から見たり聞いたりしてこられた事例から具体的に聞くことができるよい機会にもなるから。

私が希望するのは塚本クラスのゼミだ。

私は将来、徳島の地域活性化に関連した職に就きたいと考えている。このゼミでは、昔と現在の徳島をアプリを使って比較することができる。町を実際に歩き、昔との違いを発見することでどのように変化してきたか、将来はどうすべきかを自分の目で見ることができる。このゼミならば、今現在自分に必要な徳島を観察し考える力がつく。よって、自分は塚本クラスのゼミを希望する。

この授業では江戸時代の徳島がメインである。私は県外から来たため、徳島のことをあまりよく知らない。江戸時代の徳島を知ることで私個人のこの土地の理解につながるだけでなく、私のような県外出身者が知ることで、その知識や知恵を県外に発信できるため、より県外の人にこの土地の魅力を知ってもらいたい機会になるのである。そして、この授業で徳島県民も知らないような情報を知りたい。

私は塚本先生のゼミで用いるまちあるきマップである「こちずぶらり」に興味をひかれた。その「こちずぶらり」は現在自分が立っている場所は昔はどのような場所であったかを現在の地図と昔の地図をリンクさせてわかるというものである。自分も講義のあと気になってスマートフォンにダウンロードしてみたのだが、こちずリスト中に徳島の古地図がなく、日本全体の地図から位置情報を用いてさらに見つけていかなければならなかった。少しわかりづらかった。そこは改善をしてもらいたいところである。

古来の人々はその土地の特性を理解し、その土地に適した使い方をしていた。歴史のなかで、その土地がどのように使われていたかや、何が起こっていたのかを知ることによって、その土地の地盤の負荷や災害時にどのような変化をもたらすかを知ることができる。例えば、徳島大学常三島キャンパスの横に流れる助任川も昔はもっと広く、元々川だった場所を埋め立てているので、地盤が緩くなっている可能性があることなどを想像することができるなどである。それは、これから絶対に起こると言われている南海トラフ巨大地震の対策にもなる。

上で述べたように、現代と古来をリンクさせることによってその土地の文化や歴史、環境などを知る機会を与えてくれるゼミであることを期待している。また、そのゼミを通して、徳島という土地をより深く知ることができることも期待している。

私は、塚本先生の「まちあるきアプリ」から地域の魅力を考える、という授業を希望したい。なぜなら私は、GISを通じたデジタル資料の新しい活用方法や歴史学に興味があり、2年次から地域創生コースへ進み、特に歴史学について詳しく勉強したい。そのための一つの段階として、私たちが現在暮らしている「徳島」という地域について、歴史学の視点から勉強することも必要だと考える。また、この課題発見ゼミでは、総合科学入門講座で学んだ「論理的思考力・物事の多面的理解」の実践練習を主な目的としており、文献や資料の正しい収集の仕方、プレゼンテーションやレポートの書き方など、色々なことが身につく。塚本先生の授業でも、このような力が十分身につくと考えられる。

自分はスマートフォンでアプリケーションを利用することが多く、まちあるきアプリの存在を知って興味を持った。それにアプリという簡単に入手できる方法で古地図に触れることができるという点に魅力を感じた。しかし、まちあるきアプリの知名度が低く、あまり活用されていないという問題を解決すべきである。受講することで町おこしについて考える経験をすることで問題解決の能力を養えると考えた。

私は「まちあるきアプリ」から地域の魅力を考えるというゼミを選択したい。もともと江戸時代などの歴史に興味があるため、古地図を通してその時代の背景を学ぶことができるからだ。また、徳島市の「まちあるきアプリ」を使用することで現在の徳島市だけでなく、江戸時代の徳島市も詳しく知ることができるからだ。さらに、新しくまちづくりをするためには、かつての町の様子を知ることが大切である。地形や災害が起こりやすい場所は過去も現在も同じであるため、過去のまちのつくり方と現在のまちのつくり方は共通するものがある。古地図関連だけでなく、文献や資料を収集したり、調査結果をまとめてプレゼンテーションをすることはこれからのレポートや社会に出てからも必要になる能力である。

大学内での学びだけでなく、博物館などを通して、より広く古地図を活用した学びができることを期待する。



地図アプリというものは話題になった **Pokémon GO** と似ている点もあり、存在が広まればさまざまな可能性があると感じたから。例えば高齢者が家にこもりがちであるという社会問題も、大学を主体として解決できるかもしれない。またこの春からリノベーションチャレンジクラブで商品開発に携わっているので、地図アプリの新しい使い方を模索するということに惹かれた。フィールドワークで身をもって体験することを通して、地元や機関と関わり活動ができるという点は大学ならではの点ではないかと考えた。

大学の社会的・公共的機能とは、地域と連携して、大学内にとどまらない学びの場所となることである。そのためには大学と地域の連携が必須であり、学生も例外ではない。徳島大学の学生である以上、積極的に徳島という地域と関わり、徳島の土地に詳しくいる必要がある。私自身、徳島出身であるが徳島について余り詳しくない。そのため、県外からきた友人に徳島について聞かれたとき、阿波踊りや渦潮についてでしか説明できなかった。自分自身をもっと徳島について知る必要を感じた。それができるのは塚本先生のグループであると思い希望した。

私は来年度、地域創生コースに入りたいと考えている。しかし、現在の私は地域創生において必要とされる技術や知識は何も持っていない。そのため、このクラスで地域を研究する方法を学ぶことが、来年以降の自分の活動を支えることになる。それが、第一の理由である。

また、私はグループワークやプレゼンテーションを行うことが非常に苦手であり、この授業を受講することで自分を変えることができるのではないかと期待する。グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を、プレゼンテーションを通してしっかりとした意見を持ち誰かに伝えられるようになることを期待している。他のクラスでもグループワークやプレゼンテーションを行うようだが、自分の意欲を高めるために主観的な興味のあるこのクラスを希望したい。

私が塚本先生のクラスに希望した理由は、貴重な地図が備わっている「まちあるきアプ

り」を使って、フィールドワークをし、徳島県の魅力を考えることができるからです。GISは、このような授業でしか扱う機会はないと考えています。徳島県育ちの私は、ずっと住んでいるにも関わらず、徳島県のことをあまり知らないし、魅力もすぐ言える自信はありません。この機に徳島県の魅力を考え、誇りを持たれることを期待しています。

私は学芸員資格を取るために、博物館概論を受講している。学芸員は、文化財を収集し、それをできるだけ状態を保ちつつ、後世まで継承するのが仕事であるが、人々の生涯学習のための教育を行うのも重要な仕事である。だが、県立博物館の方によると、学芸員は観光地としての美術館や博物館で働く従業員のような扱いを受けがちだという。アプリ「城下町とくしま歴史さんぽ」は、徳島城博物館と徳島大学の共同開発である。このようなアプリがあるのは、古文書が現代まで残っていたからだ。我々は普段、徳島の昔の姿と今の姿を結びつけて生活することはないが、地域研究を行うことで、文化財や文献継承の重要性を知る必要があるのだ。

塚本先生のクラスを希望するのは、単に文献や資料を読み解くだけでなく、フィールドワークで実際に足を運んで調査し考えるということ、GIS や「まちあるきアプリ」などデジタル資料を活用することもあり、自分が今まで経験したことが無いことを体験でき、自分が持っているスキルを身につけられる機会に恵まれているからである。また「地域」をテーマにした授業なので、この授業で得たことを地域の活性化などに反映させることが出来るということも希望した一因である。

私は塚本先生のゼミをとりたいと考える。理由は二つある。一つ目は私は gis 学術士の資格を取りたいということだ。地図情報は社会政策の合意を形成するためにも重要な手段として使えるからだ。また地図は歴史ともつながる。私は世界史が好きであるため、gis の技術を身につけて地理的な視点からも考えることができるようになりたいと考えている。

二つ目は地元への貢献につながるということだ。大学で徳島の散歩ルートを学生の立場から紹介することによって博物館活動など地元地域に貢献できる。大学ではしばしば外部の方を読んで講義を開いてくれている。しかしほとんどの学生は単位を取るためだけに参加しているように感じる。私も例外ではない。なぜなら講義が終わると、講演者に質問もせずすぐに帰ってしまうからだ。やはりこれからの世界を引っ張っていくのは我々であ

り、我々が自分たちの将来について考えなければならない。さらに総合科学入門講座で矢部先生曰く、地方の問題がこれからの社会の先駆的問題である。したがって地方に貢献できるために自分ができることを学ばなければならないと考える。塚本先生のゼミはびったりのゼミであると考え。

僕が塚本教授のクラスを希望した理由はフィールドワーク調査を徹底的に体験することができるからです。徳島の町を自分の足で歩いて調査したりたくさんの人とコミュニケーションをとる事で自分の能力をさらに伸ばしたいと思います。またグループワークができる場所も魅力的です。地域創生を希望している僕にとって有意義な時間になると確信しています。

現地に直接赴いて調査をすることで、自分の住んでいる土地について知って考えるということができるから。また、このことは、これからの徳島県の創生のために必要なことだと思うから。そして、若い自分たちの目線から、徳島の魅力をどう発信していくかを考えることで、今まで徳島の創生に足りなかった部分を新しく作ることができるから。そしてそれにアプリを連動させるとのことだったが、それは、今の時代に適した方法だと思うので、より現実的で効果のありそうなクラスだと思うので希望している。

私はこの大学で地域活性化について学びたいと考えています。地域に活気を出すにはどうすればいいのか、住民の生活が便利になるには何が必要なのか、地域に必要なものとは何なのかを研究したいと考えています。そのためには地域についてよく知る必要があります。その手段の一つがまちあるきです。まちあるきの魅力は普段、車や自転車で通りすぎてしまうがために気づかない地域の魅力や地域の変化に気づけるということです。なのでまちあるきにはとても興味があります。今回塚本先生の説明で初めてまちあるきアプリというものがあることを知りました。だから授業をうけてアプリの見所や上手な使い方を学び、私も徳島に来てまだ2ヶ月なのでアプリを使いながらまちあるきをして徳島の魅力を再発見できたらいいなと思いこのゼミを希望しました。

私は、塚本先生の「まちあるきのアプリ」から地域の魅力を考えるという授業にとっても関心が高まった。

私は将来地方公務員として、徳島の地域活性化に携わりたい。そのためには、フィールドワークを通して、実際に徳島のことを知る必要がある。私は徳島県出身ですが、徳島のことについて知らないことがたくさんある。特に徳島の地域活性化について考えたとき、徳島の現状を把握できていないし、徳島の課題も具体的に何があるのか分からない。だからこそ、塚本先生のこの授業は私にとって、徳島のことを知り、現状を把握するのに適している。

また、GIS や古地図を利用するところにもとても魅力を感じた。特に古地図は、現在の私たちの生活には無関係だと思っていたけれど、アプリで古地図と現在の地図を交互に見ながらまちを歩くことで、違った視点から新たにまちの良さや課題を発見できる。徳島県では高齢者が多く、徳島城博物館の周りにも若者が少ないけれど、私たちの学生の目線からどのようにしたら若者が増えるのか、これをこの授業で考えていきたい。

徳島大学は、徳島の中で若者が多い町にある。だからこそ、若者が主体となって、地域活性化に携わるべきである。私も将来の第一歩として、この授業に参加して、徳島の地域活性化について考えたい。

地域の活性化という面でまち歩きアプリがどのように利用できるのか興味を持ったのでこのクラスを希望した。

その地域のことを全体的に理解するために必要なものは地図である。私たちの目では目の前の景色しか見えないが、地図を使うことでその地域全体を見渡すことが出来る。

授業では「城下町とくしま歴史さんぽ」というアプリを題材に使うということであったが、アプリを使うことの利点がある。一つは、このアプリを使用することでいつでも町を歩きながら歴史のあるものを探索できるということである。従来であれば、専門のガイドなどが必要で、ガイドを伴う町歩きは日にちや時間が決められているので、その日程に合わせるしかなかった。しかし、このアプリを利用すれば、ガイドがいなくても自分で町を歩きながら自由に行動することが出来る。そして、今自分がいる場所が昔はどうであったのかを一目で理解することが出来る。

町を探索しながら使うアプリとして、高齢者の健康対策にも使用することが出来る。授業で題材に使用する「城下町とくしま歴史さんぽ」といった歴史に関するものはどちらかといえば、外の地域からやってくる観光者向けのアプリである。健康対策には、町のスポットを巡ってスポットに行くポイントがもらえて、ポイントを集めると地域のお店で使える商品券などに交換できるといったものが考えられる。ポイントを集めながら、町を探索できるような仕組みにすれば、地元の人たちの利用を見込めるアプリになると考えてい

る。このような地域と密接な関係を持つまち歩きアプリなどを授業の中で考えていけると期待している。